

ふなばるこふんいぶつまいのうこう
古賀市船原古墳遺物埋納坑、速報！

発掘新聞

11月1日号

平成25年度第5号

編集・発行

九州歴史資料館

電話 0942-75-9575

国内3例目の馬冑ばちゅうなど
**発見！期待される全容
 解明！**



古賀市の船原古墳遺物埋納坑で見つかった馬具を中心とした多量の遺物



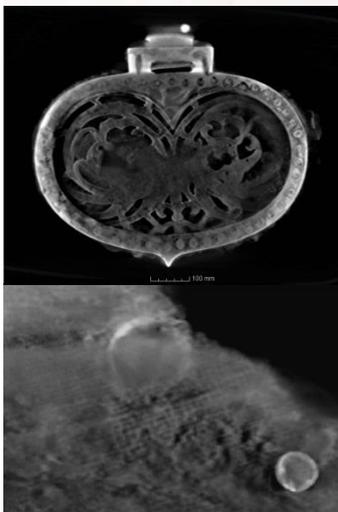
多量の馬具や武具の出土で注目を集めている

古賀市の「船山古墳遺物埋納坑(旧谷山北地区遺跡群)」の遺物の取り上げがほぼ終了したことが、古賀市と本館の共同記者会見で発表された。

今回、取り上げを進める中で、新たに馬の鞍に付けて旗立てにしていたとみられる「蛇行鉄器(だこうてつき)」3点や馬のかぶとである「馬冑(ばちゅう)」1点などが発見された。蛇行鉄器は国内で9例目、馬冑は3例目の出土である。

この他、馬の尻に付ける飾りとみられる「金銅製歩揺付飾金具(こんどうせいほようつきかさざりかなぐ)」や、馬具の「金銅装心葉形杏葉(こんどうそうしんようけいぎようよう)」など豪華な資料が発

金銅装心葉形杏葉の写真とCT写真。一番下は裏面についた布の拡大写真。



見されている。

さらに、左写真のように本館のCTスキャナでの調査によって、杏葉の裏側に布が付着していることが判明し、1対の鳳凰が向かい合っている文様が浮き彫りとなった。

これだけの遺物が一括して埋納されている例は、他にはなく、重大な発見と言える。

全部で200点以上の遺物があると見られ、今後CTや顕微鏡を使った詳細な調査を進めるとともに、古墳との詳細な関係などの調査を進める予定だ。

本館の加藤班長(CT調査担当)は、「金属以外の材質も残っていたので、埋めた方法の復元などが期待できる。多くの遺物を土のまま持つて帰ってきているので、CTなどを生かして、古賀市とともに全容解明に努めていく」と話している。(城門記者)

**「取上げも楽じゃない！
 吊り下げられた男達！」**

右写真は馬具の取り上げ状況の写真である。鉄パイプや木杭から吊り下げられた板の上に寝そべって作業しているのだ。穴の中には足の踏み場もない程、遺物が出土しているため、上から慎重に、しかし時には大胆に取り上げていくことが求められる。

実際に取り上げた本館の小林技師「気がついたら体ががちがちに固まっていることもあった(笑)。今後も、全容解明のため頑張りたい。」



取り上げ風景＝当館撮影